34. 言葉はどれほど人を傷つけるか(2): 反復→自動化

19世紀に
その表現は子供たちに教えていた
人を傷つける言葉は無視するようにと
しかし,この教えは変わりつつある
21世紀において
今は区別することが重要である
人が何を言うかと,どのように言うかとを。
人を傷つけるように言われた異なる意見が
結果的に苦痛につながる可能性がある
スティーブン・フライは,イギリスの有名な作家だが
その韻文の後半を変えた多くの人々の 人である
「棒や石が私の骨を折ることはあるかもしれない
しかし言葉は常に私を傷つけるのだ」と
彼は~と説明する
「骨は治り,実際にはより強くなる
まさにその折れた部分において」と
しかし,彼は~と付け加える
言葉は「何十年にもわたって傷つけ,
そしてその傷口は再び開いてしまうこともあり得る
この上なく静かなささやきによってさえも」と
言葉は,効果がないどころか
実害を生み出す力が非常に強力なのだ